



令和6年7月12日（金）、十和田市立法奥小学校及び沢田小学校第4学年15名による集合学習「水たんけん学習」が実施されました。「水たんけん学習」では、地域の農業用施設の水源である十和田湖や十和田発電所の施設見学を通し、地域の歴史や地理的繋がり、用水路の仕組みについて理解することを目的としています。



【法奥小学校にて出発式】

児童たちは地域の農地に水を届けるため奥入瀬川水系に設置された農業用施設を見学しながら、水源である十和田湖へ向かいます。途中、国の天然記念物に指定されている法量のイチョウ近くの暗渠跡にも立ち寄りました。奥瀬堰土地改良区職員の方から、昔の人が水路を引くためにどうしても避けられなかった大きな岩に手掘りでトンネルを作ったと説明を受け、そのトンネルを覗き込みながら驚いた様子で声を上げていました。



【頭首工の見学】



【暗渠跡を覗き込む児童】



【水路の水の速さを確認する実験】



【沈砂池の見学】



【水流実験後、集合写真】

十和田発電所では、水車を回すための水を取り入れる子ノ口の青ブナ取水口と発電所内の水車を見学しました。水を取り入れる時に混ざってしまう木の葉や流木などを取り除く除塵機や、十和田発電所で大きな音を立てながら回る水車を実際に目にした児童たちは、その迫りに圧倒されたように見入っていました。



【青ブナ取水口の見学】



【十和田発電所の見学】

見学から戻った後は、法量小学校の理科室で水質調査の実験をしました。見学の途中で頭首工などから採取した水を使い、COD（水中の化学的酸素要求量を指し、高いほど有機物が含まれる）を測定しました。数日前に降った雨の影響でやや濁りが強く、例年よりもやや高めの結果が出るが多かったですが、児童たちは奥入瀬水系の水がそれほど綺麗であるかを目に見える形で体感することができました。



【水質調査実験の様子】

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>